

高等学校・第3学年・総合的な探究の時間・「町民の健康寿命を延ばそう」①

活動のねらい【個と集団の学びの深まり】

高齢者の健康寿命を延ばそうと考え、第1回健康教室を実施した。その後、当日のアンケートやインタビューの他に、1週間後の様子など、ウェブ会議ソフトで調査したことを基にグループで協議し、自分たちの考えた健康教室の取組を評価し改善案を考えられるようにする。

ICT端末の活用のポイント

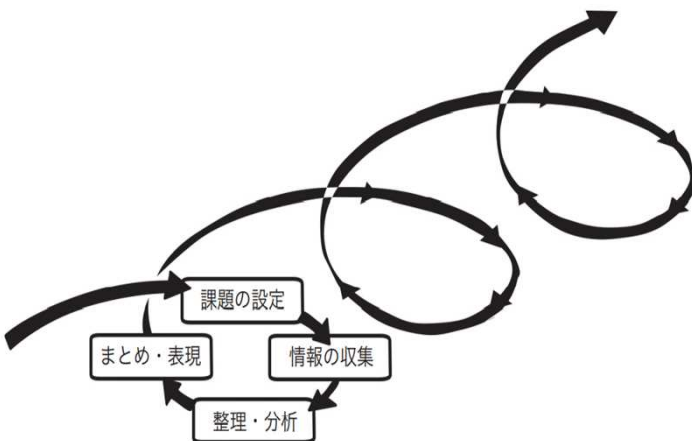
多様な情報、多量な情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に調査し収集することが可能

インターネット検索、電子メールによる質問、ウェブ会議ソフトを活用した取材などを通して情報を収集していくことが考えられる。

その際、収集した多様で多量の情報をクラウド上に適切に整理・保存して、蓄積した情報の取り出しや共有が必要に応じて簡便に行えるように配慮する。

事例の概要

本事例は、第1回健康教室を実施したことによる、高齢者の健康に対する意識の変化について情報を収集する。ウェブ会議ソフトを活用したインタビューとアンケート機能を併用することで、主観的で感覚的な情報と、数値化された客観的な情報を幅広く多様に収集する。これらの情報を個別フォルダに蓄積しながらも、グループでも共有することで、いつでも、どこでも、繰り返し、瞬時に確認することができるようにする。



高齢者の健康寿命を延ばそう。

先行研究やアンケート調査で情報収集する。

調査結果を整理・分析する。

第2回健康教室を実施する。

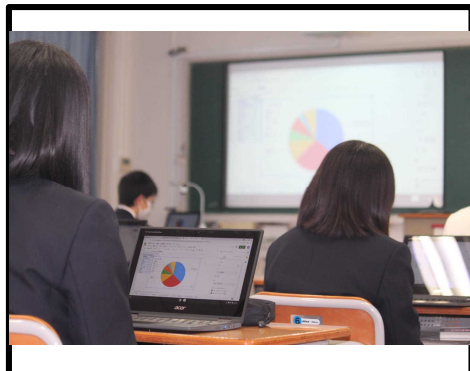
高等学校・第3学年・総合的な探究の時間・「町民の健康寿命を延ばそう」②

～ICT端末を使って、多量で多様な情報を収集する～

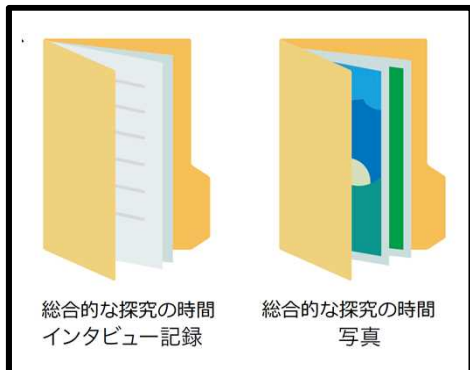
【オンライン・インタビュー】



【アンケート機能の活用】



【共有フォルダの活用】



【ICT端末の活用のメリット】

- 健康教室の1週間後にウェブ会議ソフトを活用し、高齢者の方と健康トレーニングの取組状況についてインタビューすることで、「食事がおいしくなった」「ぐっすり寝られるようになった」などの主観的で感覚的な情報を遠隔地でも誰でも収集できる。
- 健康教室当日・1週間後におけるアンケートは、学習支援ソフトのアンケート機能を活用することで、健康トレーニングの時間や回数などの数値化した情報を簡便に収集できる。
- 言語化した情報、数値化した情報を個別の蓄積を基本としながら、グループによる共有フォルダの活用による蓄積方法も用いることで、より多様で多量な情報を収集できる。

【ICT端末の活用についての配慮事項】

- 情報収集の方法は、目的や場面に応じて適切に選択・判断できるようにする。例えば、相手方のICT環境（カメラ機能や通信環境など）を確認する。
- 収集した情報を適切な方法で蓄積するために、収集した場所や相手、期日などを明示する。
- 通信状況などによる接続できない場合の対応方法やプライバシーの保護などにおけるオンライン上のコミュニケーションについて事前指導する。
- 実際に訪問し、見学や体験をしたりインタビューしたりすることなども積極的に行う。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフト（ファイル共有機能、コメント機能）、ウェブ会議ソフト